「コレでなければ分類学ではない」というような主張が，横行しないことを期待する．

少なくとも，「この分類表の順序に標本棚を配列しよう」とする標本室は，たとえ新設の機関でも現れないのではないか？「不確定要素が多いから，しばらく様子を見よう」ということになるのだろう．ただしこれは表向きの理由で，「現行の配置と違いすぎるのは不便だ」という保守派が大勢いる間は動かせないだろう．高等植物の標本室の配列は，一次元でやるほかはない．コケ類のように，名前の ABC 順に標本を配列する分野なら，こういう問題はあまり起らないのだが. . .

（金井弘夫）

□横浜植物会：**横浜植物会の歴史 — 創立 100 周年記念誌** — B5 判 . 382 pp. 2009. 同会．ISBN: no number.

わが国の植物同好会で最古の歴史を持つ横浜植物会の百周年記念出版である．口絵 7–64 頁では，さまざまな時代の採集会の情景や肖像写真によって，お名前でしか知らない方々の風貌や手跡に接したり，服装や装備の変遷をたどったりすることができる．これに加えて，貴重な植物の標本，最新の植物画などが並んでいる．65–242 頁は資料篇で，会報を含むいろいろな出版物から抽出した会史関連の記述，年報・会報総目次，例会記録，会員の執筆活動記録，役員関係記録などが見られる．先頭の沿革が 1 頁，年表が 6 頁は簡単すぎるように見えるが，後続の頁の詳細な記事がそれに代わっている．243–296 頁は会員や関係者の記念投稿，297–378 頁は当会関係の歴史的資料・標本に関する特別寄稿である．多士済々の会員達が総力を挙げて制作したものなので，どの頁を開いても読み切れない内容で，横浜植物会ばかりでなく，日本の植物分類学の歴史の参考資料として有用である．

最後に一つだけ不満を言うと，ブックケースがキツすぎて，本を取り出すのが大変だったし，しまうのにも強引に押し込まねばならなかった．これでは不便なので，ブックケースを解体して組み立て直した．飾っておくものではないので，たまたま私が手にしたものだけの事例であってほしい. 頒価は記されていないので限定頒布と思うが，連絡先は次の通り．240- 横浜市 (Tel/Fax ．横浜植物会．（金井弘夫）

□日外アソシエーツ：**植物 3.2 万名前大辞典** A5. 772 pp. 2009 (第二刷). ¥9,333. 日外アソシエーツ．ISBN: 978-4-8169-2120-9 C0545.

第一行の見出しが「アアソウカイ亜阿相界」とあるので，栽培植物の品種名がたくさん出ていて，作出した新品種の名前を考える参考になるかも知れないと思った (本誌 **83**(2): 124)．本書は植物名（コケ，菌，地衣，藻を含む）の仮名読みを見出しとして，漢字名のあるものはそれを示し，ごく簡単な記述によって，より詳しい記述のある文献への手がかりを与えることを目的としている．凡例によると，集録対象は国内の代表的な図鑑・百科事典とある．アアソウカイの説明は「パキポディウム・ジェエイの別名」である．そしてパキポディウム・ジェエイを牽くと「(*Pachypodium geayi* Cost. et Bois) キョウチクトウ科．別名亜阿相界。高さは 8 m。花は白色．園芸植物」である．本書の目的からすれば，説明が物足りなくても仕方がない．しかし，ざっと見たところ，学名の仮名読みの見出しが多く，園芸品種名はあまり目につかない．そこで学名の仮名読みと栽培品種名の見出しの数がどのくらいあるかを調べてみた．学名の仮名読みは 38 %，栽培品種名は 8 % だった．栽培品種名は，通常の図鑑に出てくるような普通なものはかぞえなかったから，そういうものを含めれば 10 %，3,200 件程度だろう．ここで考え込んだのは，学名の仮名読み綴りで検索する需要がそんなにあるのだろうか，ということだ．属の学名の仮名綴りは普通に流通しているから，その源を探る必要はあるだろう．しかし種名までを学名で口にする人が，いまさらこういう辞典を使うとは思わない．それに学名の仮名文字表現は，人によって異なる．最新園芸大辞典では，上の植物はパキポジューム・ジーイイである．この本の目的からすれば，ありそうな綴りはみんな示した上，統一した表示法を決めればよさそうに思うが，そういう配慮はされていないようだ．*Viola* はビオラ，ヴィオラかと思ったら，ウィオラという綴りしか出ておらず，おまけに「ウィオラ」の見出しには「ニオイスミレの別名」とあるだけだ．もっとも，スミレの項を見ると「菫 (*Viola mandshurica*)」と「スミレ科の属総称」とが別項目として立てられているから，わかる人にはわかるだろう．また *Smilacina* はスミラキナとスミラシナで別な植物の見出しに使われている．原典の表示がまちまちなのは仕方がないが，こう

いう辞典にするときにはご苦労様ではあるが，統一を計る必要があるだろう．本書の初版は 2008 年で，翌年には第二刷を出しているのだから，それなりの需要はあったのだろうが，有用性という面からは工夫の余地が大きい．さしあたり，学名の読みによる見出しは属名についてだけで十分と思う．反面，栽培品種名や古典に現れる雅名などをたくさん取り込んで出典を示せば，利用価値は高まるだろう．それで出典だが，何の手がかりもない．序文の最後に，同社の「植物レファレンス事典」の利用がすすめられているだけだ．そこで，その本を紹介せねばならなくなった．この大辞典の記事は，植物リファレンス事典の一部を引き写したものだからである．また本書には，次に紹介する事典 II のデータは含まれていないようだ．ということは，名前大辞典 II を出す時に，改善の余地がある，ということになる．（金井弘夫）

□日外アソシエーツ：**植物レファレンス事典** A5. 1,362 pp. 2004 (第一刷). ¥40,950. 日外アソシエーツ．ISBN: 4-8169-1821-3.
□日外アソシエーツ：**植物レファレンス事典 II** (2003-2008 補遺)　A5. 894 pp. 2009 (第一刷). ¥33,600. 日外アソシエーツ．ISBN: 978-4-8169-2158-2.

序文によれば，事典では 76,241 件，27,220 種，事典 II では 37,375 件，13,467 種を集録してある．表紙裏に，採録した図鑑・事典類の書名，出版社，刊行年月，略号の一覧がある．略号は書名の漢字２～４字で構成してある．事典では 60 件，事典 II では 71 件，刊行された図鑑，事典類の多くをカバーしているだろう．ただし，本文から略号で検出した原典名を，この一覧表で見いだそうとするとき，配列順序が書名の漢字読みの五十音順なのでたどりにくい．このリストは略号の文字順に並べた方が便利だろう．巻末の索引は，学名からその植物の和名または和名読みの出ている頁がわかるようになっているが，和名がない場合には学名の片仮名読みの出ている頁が示されている．栽培品種でも，属の読みから始まる片仮名綴りなので，栽培品種名あるいは流通名を探る目的には利用がむつかしい．記述は前述のように数行のごく簡単なもので，あとは出典略号と頁，および図，写真（カラーかモノクロか）の区別が示されている．3.2 万名前大辞典は，事典の記述部分のみを転記したものに過ぎない．だから，先に記した注問は，これらの事典にも当てはまる．カナ読みの植物名と学名綴りの植物名は別建てとし，学名の片仮名読みの見出しは，属名に限定する方が，使い勝手がよいのではなかろうか．そうすれば *Viola* の説明が「ニオイスミレの別名」だけ，というようなおかしなことにはならないだろう．一方パキポディウムの見出しには「キョウチクトウ科の属総称」という説明だけで、原綴りがない．このあたり，事典としての配慮に欠けると思う．また外国文字でしか表記されていない栽培品種名は，片仮名で表現しなくてはならないが，その綴りは慣習に従うほかはないだろう．

日外アソシエーツは，わが国で最も早くから日本語の電算編集を取り入れた出版社の一つで，25 年ほど昔にお世話になったことがあるが，その頃すでに，全文の単語に検索用コードを一々与えていて，驚いたことを記憶している．まだ編集ソフトが未発達の時代で，ゲラが仕上がりとは異なったスタイルだったので，校正に当たった者が苦労していた．値段もかなりのものなので，あり余る情報をうまく利用する工夫をして欲しい．本書はデジタルデータでも利用できるので，希望者は出版元へ連絡するよう付記されている．

（金井弘夫）

□御影雅幸（編著）：**ビスターリ　ヒマラヤ — その自然と文化を探る —**　B5. 230 pp. 2009. ¥2,800 ＋ 税．京都広川書店．ISBN: 978-4-901789-11-0 C3040.

金沢大学で平成 9 年以来続いている教養科目「ヒマラヤ風土記」の記録である．トレッキング，文化人類学，登山の歴史，保健事情，伝統医療，河口慧海，チベット医学と仏教，気象，氷河，環境問題，高山植物，植物多様性，寄生虫と薬，と多様な話題について 9 人の方が執筆している．これだけ広範な話題を手頃な頁数に収めるのだから，執筆者によって精粗さまざまな記述となるのは仕方がない．

私にとっては，関心はあるものの取りつきにくかった事柄が，伝統医療やチベット医学と仏教の章で，理解がいくばくか深まった気がする．専門違いの分野の知識を得るのに都合がよい．もっと知りたければ，入門編として読んでおいてから，講義を聞きに行って質問するきっかけにすればよい．（金井弘夫）